



はるき

大阪府岸和田市立 春木小学校

ICT 活用の入り口を e ライブラリで
～一人ひとりに合った指導で学習意欲アップ～

春木小学校では、一人一台タブレットが導入されるとすぐに、eライブラリを全校で推進してきました。導入したばかりでも活用しやすいおすすめの教材や活用法をご紹介します。

I eライブラリでやる気と集中力大幅アップ

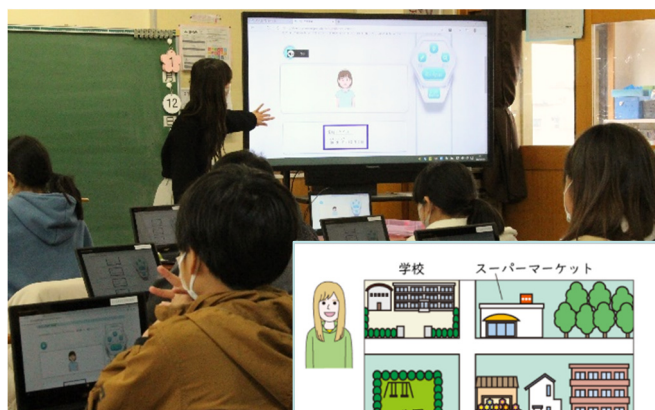


6年 理科 単元：月の位置

タブレットを使った最初の授業は、eライブラリで苦手な単元を復習しました。児童は、興味津々な様子で、先生から配信される課題に次から次へと取り組みます。

白黒印刷では見えづらい星空のイラストも、eライブラリはカラーで見やすく、学習意欲が高まります。また、わからない問題は、解説教材で要点を押さえられるので、頭の中を整理するのに役立ちます。

I コミュニケーションの素地を育成



「道案内」など実生活に役立つ内容を収録



6年 外国語 単元：じこしょうかい

学校でも家でもネイティブの発音に触れてほしいという思いから、授業の中盤では、eライブラリのドリルで英語のリスニングに挑戦しました。

よく聞き取れなかったという児童には、問題画面のボタンをタップして、すぐに音声を再生します。また、解答解説に載っている英文と和訳を見ながら、繰り返し英語特有のリズムに触れることもできます。

インタビュー 児童のやる気に背中を押されて

プリント学習では、一斉に取り組むと、児童の理解度によって終わる速さが違うため、速く課題が終わった児童は待つ必要がありました。一方、**eライブラリでは、自分で難易度を選んで学習を進めることができ、次のレベルにどんどん進むことも解説を読んでじっくり問題を考えることもでき、同じ学習時間を全員が確保しています。**

また、学習をすればするほど種から芽が出たり葉が増えたりするので、それを励みに意欲的に学習を進めています。不安がある中で始まったICT活用ですが、実際にやってみると児童の前向きな姿勢に背中を押され、「明日もeライブラリを使おう！」と授業の励みになっています。



6年生担任
長谷川 聡子先生

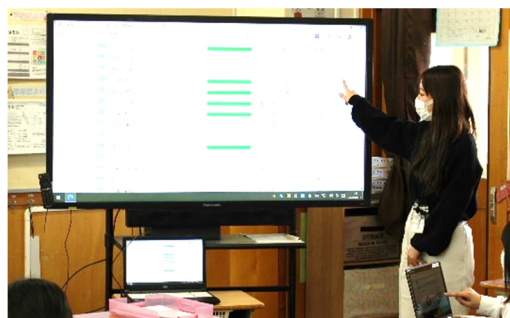
■ モニタリングで児童の進捗管理

環境	氏名	進捗度	正答率	時間(分)
■	児童A	10 / 10	90%	1
■	児童B	10 / 10	80%	1
■	児童C	10 / 10	50%	2
■	児童D	10 / 10	90%	3
■	児童E	10 / 10	100%	1
■	児童F	10 / 10	90%	1
■	児童G	10 / 10	100%	1
■	児童H	10 / 10	100%	1
■	児童I	7 / 10	100%	1
■	児童J	10 / 10	100%	2

▲モニタリング機能の例

児童がスムーズに教材にたどり着けるように、先生は学習指示を使います。すると、児童の画面に教材が表示され、「おー来た！」と課題へのやる気が高まっていました。

学習指示には、モニタリング機能がついているので、配信した課題の進み具合が一目瞭然です。学習が止まっている児童には、近くまで行き、どこにつまずいているのかを一緒に考えます。一方で、自力で解き進められる児童には、「わからない問題は解答解説を読んでね。」と自立学習を促していました。



▲モニタリング機能の児童一覧で学習ペースを確認



▲学習ペースや理解度を見ながら個別に児童へ声かけ



▲解答解説を小声で読みながら自分で学習する児童

先生の工夫

- 意欲アップのためにカラーで見やすいイラストが使われている教材を活用
- リスニング教材でネイティブの音声を繰り返し聞かせ、英語特有のリズムに触れさせる
- モニタリング機能で学習が止まっている児童を個別にフォロー

インタビュー 児童に寄り添った指導と支援に活かす

特別支援学級では、児童ごとに学年も教科も異なる教材を使いながら、それぞれの授業が進みます。**eライブラリは全学年の単元を自由に選べるので、各児童が自分に合ったペースで学ぶことができます。**

今後は、児童が先生に相談する手段のひとつとして、メッセージ機能を取り入れてみたいです。「メッセージを打つ」という今の児童が慣れ親しんだ方法で、気がねなく先生に相談ができる機会が増えれば、個人面談やアンケートとともにささいな変化を知るきっかけになるかもしれません。



特別支援学級担任
濱崎 博先生

今後の展望 児童の学力向上と先生の業務改善に向けて

一人一台のPC端末が整備され、児童はeライブラリのドリル学習や調べ学習を意欲的に楽しんで取り組んでいます。先生方はプリント教材の作成や確認テストを有効に活用しています。**新機能としてAI機能が搭載されたことで児童一人ひとりの習熟度に合わせた出題や個々の苦手なところの気付きにもつながっています。**事前にドリル学習の課題の設定をしたり、確認テストの作成が簡単にでき、採点・分析が自動で行われることによって業務の効率化が図られ、子どもと関わる時間や教材研究の時間にゆとりができました。



教頭
田所 広行先生